

社会人対象情報教育における XOOPS の活用

—大学院ビジネス講座「企業経営情報化論」での実践—

堀口 貴光, 湯瀬 裕昭, 渡部 和雄, 鈴木 直義

静岡県立大学経営情報学部

〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1

e-mail: suzukina@u-shizuoka-ken.ac.jp

概要

本稿は、中小企業経営者を対象とした大学院ビジネス講座「企業経営情報化論」における、XOOPS(eXtensible Object Oriented Portal System)の活用事例と導入効果の報告をする。同講座は静岡県中小企業家同友会経営情報化委員会が企画・運営を行い、筆者らが支援する形で展開された。「『ホームページ』を使った経営の IT 化」に期待を寄せる受講者を対象として行い、その成果として、受講者が具体的な経営行動に移すなどの実践的な成果に結びついた講座となった。本稿では、講座の概要からはじまり、講座運営の課題を示していく。そして、問題解決のために導入した XOOPS やその他授業支援のサービスについて説明し、導入効果をまとめ、講座の成果報告をする。

1. 講座の概要

静岡県立大学大学院経営情報学研究科では、つとに社会人を対象にした実践的なビジネス講座を開講してきた。そのプログラムの一環として 2005 年 1 月から 3 月にかけて 10 週にわたり毎週金曜日の夜間に、地域の中小企業経営者を対象にした「企業経営情報化論」¹⁾という講座を実施した。その講座では受講者それぞれの企業の経営情報化という目的で授業を展開し、そのうえで「経営者にとって必要な IT とは何か」を討議し、それをもとに経営情報化プランを策定していくことを最終目標とした。講座は「静岡県中小企業家同友会」との協力協定のもとで、同会の「経営情報化委員会」の企画・運営を筆者らが支援する形で展開された。同委員会の「IT 武装化プロジェクト」という実践を通して得た活動成果を、授業の中で発展展開させることを目指した。

なお、講座は、遠隔講義システムを利用して静岡県の沼津市と静岡市の 2 会場に分かれ、インタラクティブな討議形式を試みた。

受講対象者は、自社経営の変革を(漠然とした)

IT 化に期待している中小企業経営者ないしは所属会社の経営に関心のある人たちである。中小企業経営者が 7 人、企業に勤める人が 2 人、定年退職後の人が 2 人と合計 11 人が受講した。講座は情報技術を身に付けるための講座ではなかったので、受講者の情報リテラシに関して特に制限を設けなかった。

2. 講座運営の課題

社会人講座の課題は講座の内容や形式、対象とする社会人によって様々であるが、今回の講座で想定した課題を以下に示す。

- 週に 1 回 2 時間 15 分という間隔で行われる授業では、次の授業までの間に受講者が講座との関わりを完全に絶ってしまい、教育効果を著しく損なう。
- 2 会場を結んでの遠隔講義システムを利用した集合教育では、講師が個々の受講者を的確に把握することや、各会場の受講者同士の十分な相互理解は事実上不可能である。
- 受講者の授業に対するモチベーションの確認と維持を行う必要がある。
- 事前アンケートから IT 化への Web サイトに期待を寄せる中小企業経営者が多いことがわかり、最新の Web サイトの動向や技術をどのように理解してもらうか。

これらの課題に対して、学習効果を向上させる

The Introduction of XOOPS into Information Literacy Education for the Employers of Small and Medium Enterprises: A Case Study on Recurrent Education.
Naoyoshi SUZUKI, Takamitsu HORIGUCHI, Hiroaki YUZE, Kazuo WATABE
School of Administration and Informatics

為の環境として、授業の進行状況を情報発信し、蓄積し、学習を支援する Web サイトを構築し、それ以外にも支援サービスをする必要があると考えた。

3. 学習支援のための CMS(Content Management System)の検討

前述の問題に対応する1つの手段として筆者らは CMS の援用を考えた。今回の学習支援のための CMS に求められるものは、第一に受講者同士が授業と次の授業までの1週間の間に、受講者個別の生活環境の差を乗り越えて議論を交わすことができることである。同時に受講者である中小企業経営者の漠然とした Web サイトに期待を寄せるセンスを磨くことも同時に要求された。そこで既に研究室内での情報共有のツールとして利用実績のある XOOPS¹⁾を採用した。XOOPS は「eXtensible Object Oriented Portal System の略で、直訳すると『拡張可能なオブジェクト指向ポータルシステム』」と定義されている。

XOOPS は、コミュニティサイトを構築することを目的に開発されており、そのための豊富な機能(モジュール)がオープンソースとして提供されており、導入しカスタマイズがしやすいといった特徴がある。また、認知度は高くなりつつあり、企業や大学、NPO といった組織の Web サイトに導入されている実績もある。

4. XOOPS の準備と提供したサービス

XOOPS だけでは十分な効果がでないと考え、XOOPS と併用してその他授業支援のサービスを、10名あまりの学部学生の支援チームが行った。具体的には XOOPS の環境構築から教材の印刷配布、情報リテラシの不足する受講者への個別指導、発言の同時文字化による遠隔会場へのレジメサービスといった授業支援を行った。XOOPS には、学習を支援の機能としてニュース、フォーラム、フォトアルバム、リンク集のモジュールを導入した。

5. 導入効果

本講座の XOOPS²⁾には講座の受講者 11 人、講師 7 人、講師関係者 12 人、授業支援の学部学生

が 8 人と合計 38 人が登録して利用した。XOOPS が提供したサービスの中でも、受講者が授業時間以外で議論を行う場を提供するために導入したフォーラムモジュールは非常に有用であったといえよう。授業に関する話題ごとにフォーラムをカテゴリ化し、その中で受講者同士や講師、サポートの学生を交えて授業終了後から翌週の授業開始までの間、議論を深めていくことができた。

CMS ならではの Web ブラウザを用いてのコンテンツ管理を受講者自身が XOOPS を通して携わることで、既存の Web サイトへの技術・知識に対する認識も改める効果もあった。

XOOPS は、言うまでもなく実用的に利用するためにカスタマイズが必要である。しかし本講座ではそれに固執せず、メーリングリストとの連携や研究室で開発運用している Web 上でのファイル共有のためのシステムなどを援用して学習支援をした。

6. まとめ

本講座では前述の課題に対して、XOOPS は非常に有効に機能した。それにとどまらず、CMS としては最近主流の「ブログ」という言葉すらおぼろげにしか知らない企業経営者たちに、XOOPS を利用し実体験を通し、Web サイトに対する新たな経営のセンスを目覚めさせた。講座終了後に、幼児教室を運営する受講者は、生徒の保護者を対象としたコミュニティサイトに実際に XOOPS を導入し、顧客とのインターフェースとして活用するなど、実際に経営へ取り入れて実践し始めた。ともすると、聞き流して終わりがちなこの種の講座に比べて、本講座は具体的に経営への実践的な成果に結びついた講座となった。

参考文献

- [1]企業経営情報化論シラバス
<http://lin012.u-shizuoka-ken.ac.jp/~busi-it/info/>
- [2]XOOPS 公式サイト
<http://jp.xoops.org/>
- [3]企業経営情報化論 XOOPS
<http://lin012.u-shizuoka-ken.ac.jp/~busi-it/xoops>